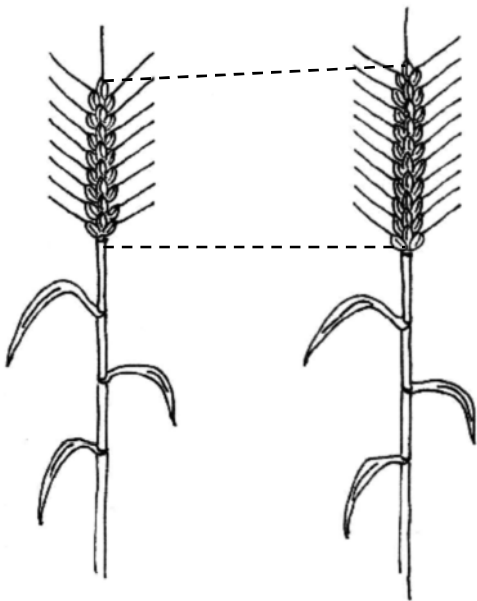


# 小麦「イワイノダイチ」を奨励品種に採用

岐阜県では、県民食料確保計画に基づいて県下各地で小麦の作付面積が拡大しています。しかし、岐阜県の小麦の主流品種である「農林61号」では、作付けの拡大に向けて、早播きを行なうと凍霜害に遭遇し、また収穫時期は入梅となるために、粒の退色や容積重の低下など品質低下が生じて問題となっていました。

そこで、県内の小麦生産の安定化を図るためにも、早播きが可能で、より早熟な「イワイノダイチ」を奨励品種に採用することとなりました。



「農林61号」

「イワイノダイチ」

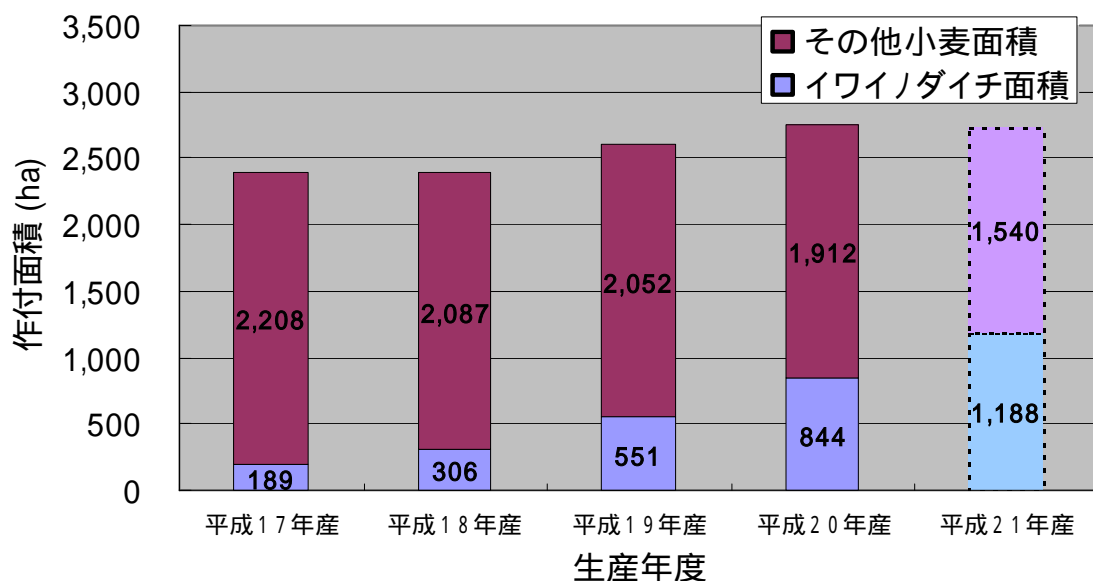
## 「イワイノダイチ」の品種特性

「農林61号」と比較して

以下のような特徴があります。

1. 10月中旬の早播きが可能で、凍霜害の被害が少ないです。
2. 出穂期は3日(4月11日)、成熟期は2日(6月2日)早いです。
3. 稈長は約7cm短く、倒伏に強いです。
4. 穂数は多く、穂長はやや長く、多収です。
5. 粒は「農林61号」と同じ赤粒種で、外観品質はやや優れています。
7. 日本麺の製麺性に優れています。

作付面積の推移



(岐阜県農業技術センター 作物部)